

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06381

研究課題名（和文）言語の創発過程の人類学的研究

研究課題名（英文）An anthropological study on the emergence of language

研究代表者

井原 泰雄（IHARA, Yasuo）

東京大学・大学院理学系研究科（理学部）・准教授

研究者番号：90376533

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 94,250,000 円

研究成果の概要（和文）：ヒトの言語能力の進化的起源について、言語の二つの特徴である階層性と意図共有に注目して研究を行った。言語的コミュニケーションにおいて、話し手の思考は階層的な構造をもつが、発話においてそれは線形化され、聞き手はそこから元の階層構造を再構築する（階層性）。この過程は、発話の背後にある意味を共有しようとする話し手と聞き手の協力に強く依存する（意図共有）。本研究では、自然人類学、考古学、霊長類学、比較認知科学、進化理論を含む様々なアプローチを駆使することにより、ヒトの言語能力の進化的起源にかかわる歴史的疑問（言語能力はいつ出現したのか）と生態学的疑問（なぜ出現したのか）について多くの示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、ヒトの言語の進化的起源を研究するための基本的な枠組みが提示された。特に、言語能力の出現過程を、先史人類学や考古学の知見との整合性を保ちながら、人類進化の歴史のなかに位置づけることの重要性が確認された。また、言語能力およびそれを構成する下位機能が、どのような生態学的要請により適応的意義をもつに至ったのかを理解するうえで、現生類人猿の生態、認知との比較が有効であることが示された。言語能力はヒトの特殊性の主要な一部分をなし、その進化的起源の解明は、「人間とは何か」という根源的かつ普遍的な問いに対して科学的な示唆を与えるものである。

研究成果の概要（英文）：We studied the evolutionary origins of the human language faculty as one of the most important factors making humans unique among all animals. The focus of our investigation was on two features of human language: hierarchy and intention sharing. In linguistic communication, a speaker's thought to be communicated is often hierarchically structured; however, it is linearized in her utterances, from which a listener reconstructs the original hierarchical structure (hierarchy). This process fundamentally depends on the cooperation of the two parties to share the meanings behind the utterances (intention sharing). Taking a variety of approaches, including physical anthropology, archaeology, primatology, comparative cognitive science, and evolutionary theory, our research provided a series of implications about the historical (when did the language faculty emerge?) and ecological (why did it emerge?) questions on the evolutionary origins of the human language faculty.

研究分野：自然人類学

キーワード：人類学 考古学 霊長類学 進化理論 比較認知科学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

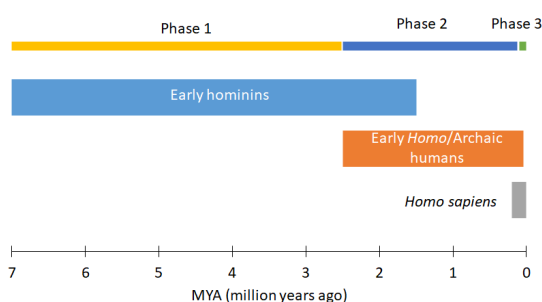
(1) ヒト(ホモ・サピエンス)と他の動物の間には越えがたい質的な違いが感じられる。この違いは、約700万年前のヒト・チンパンジー分岐以降にヒトの系統で派生した何らかの特殊性に起因する。ヒトに人間らしさを付与するこの特殊性を「人間性」と呼ぶなら、人間性の起源と進化を明らかにすることは自然人類学の中心課題である。本研究では、人間性の最重要要素の一つと考えられる、言語による生産的かつ協力的なコミュニケーションに注目した。

(2) 言語を特徴づける性質として、階層性と意図共有が挙げられる。ヒトの思考は階層的な構造をもつが、発話においてこれは一次元化され、発話の受け手は次元の音列から階層構造を再構成する(階層性)。この過程は、話者どうしが表現の背後にある意味を理解しようとする姿勢(意図共有)に依存する。本研究は、階層性認知の能力と意図共有の能力を、言語能力を構成する下位機能として位置づけ、それらが、いつ(歴史的側面)、どのようにして(生態学的側面)出現したのかを理解することを目指した。

2. 研究の目的

(1) 言語の階層性と意図共有の認知基盤が、いつ(歴史的側面)、どのようにして(生態学的側面)出現したのかを明らかにすることを目指し、以下の目的を設定した。

(2) 歴史的側面の理解のために、化石人骨や考古遺物の証拠に基づき、言語能力を構成する個々の下位機能の出現を人類進化のタイムライン上(右図)に位置付けることを第一の目的とした。



(3) 生態学的側面として、ヒト科の動物の中で人類でのみ言語能力が派生した理由を知るため、ヒトと大型類人猿の社会生態・認知の比較を通じて、言語能力がどのような生態学的背景に対する適応だったのかを理解することを第二の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 形態人類学 化石資料の分析から、階層性・意図共有の認知基盤の進化的遷移を探る。これまでに開発した化石人類の脳形態推定の方法を発展させることにより、化石人類の言語能力の推定方法を確立する。

(2) 考古学 考古資料の分析から、階層性と意図共有の認知基盤の起源に迫る。投槍器猟のような技術には組合せ道具の複合的連鎖構造が見られる。このような技術を可能にする能力は言語の階層性の認知基盤と関連している可能性が高い。石器の分析から、これらの技術の出現時期を推定する。

(3) 霊長類学 類人猿のコミュニケーションに関する知見は、言語の起源を知る上で鍵となる。タンザニア・マハレ山塊国立公園で野生チンパンジーを観察し、言語能力の前駆体を探索する。

(4) 比較認知科学 ヒト乳幼児の発達研究で用いられる入れ子のカップ課題を使って、大型類人猿がもつ階層性認知の能力を明らかにする。

(5) 進化理論 言語の階層性・意図共有の認知基盤を出現させた淘汰メカニズムを数理モデル化する。動物のコミュニケーションやヒトの社会行動の進化に関するこれまでの数理研究を拡張し、言語能力がどのような社会生態学的ニッチへの適応であったのかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 現代人(ホモ・サピエンス)および化石人類(アウストラロピテクス・アフリカヌス)の上下顎骨形状に対してランドマーク法を用いることにより、現代人の摩擦音[s]発音時の口腔形状から化石人類の顎骨形状に合う口腔形状を推定した。その口腔形状に対して空力音響シミュレーションを行うことにより、化石人類が自由に舌形状を変形できたという仮定の下、摩擦音のような音を発生できることを示した(文献)。

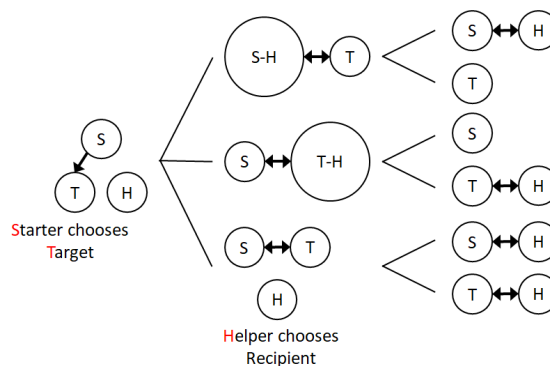
(2) 考古遺物において単純な着柄から投槍器のような複合的連鎖構造をもつ組合せ道具に至る技術的変遷を明らかにするために、基礎的参照データを構築した。これによりヨーロッパの初期

ホモ・サピエンスの石器を分析した結果、投槍器あるいは弓矢のような複合的連鎖構造をもつ狩猟具は、ホモ・サピエンスのユーラシア大陸各地への拡散の時点で開発されていたことが示された（文献 ）。階層構造をもつ道具の製作技術が言語と同じ認知基盤をもつと仮定すれば、遅くとも 45,000 年前のホモ・サピエンスが、階層性をもった言語を操る認知基盤を獲得していたことが示唆される。

(3) 人類進化の過程で初期言語が成立するための前提条件として、個体間の協調と分配が挙げられている。初期人類は森林から草原へと生息環境を徐々に移すとともに、それに伴って肉食傾向を強めたと考えられている。当時の人類は草原に生息する他の肉食獣と競争しながら動物の屍肉を利用していただけと言われており、このような対峙的屍肉食が、個体間の協調と分配をうながす生態学的背景になったとする仮説が提案されている。本研究では、タンザニア・マハレ山塊の野生チンパンジーがヒョウから獲物を奪って食べるという珍しい事例を観察し、この観察を中心に論文をまとめ、対峙的屍肉食について議論した（文献 ）。野生チンパンジーでも対峙的屍肉食が見られることが明らかになり、仮説の妥当性が示唆された。

(4) ヒトのおとなは言語に必要な階層性認知の能力をもつ。本研究では、ヒトの子どもとチンパンジーがもつ階層性認知の能力を探るため、比較認知科学的研究を行った。入れ子のカップ課題を用いた実験を実施し、ヒトの子どもとチンパンジーのおとなが階層的に物体を組み合わせる操作を行った。その際に用いられた操作方略を分析した結果、試行錯誤的な操作パターンだけでなく、ヒトの言語における「併合」と呼ばれる認知的操作に対応する部品集積型（サブアッセンブリ型）の物体操作が両者で見られることが明らかになった（文献 ）。このことから、初期人類にも萌芽的な階層性認知の能力が備わっていた可能性が示唆された。

(5) 進化の過程で、ヒトでのみ高度な意図共有と階層性認知の能力が出現したこと理由を説明するため、人類に特徴的な個体間相互作用のあり方が淘汰圧になった可能性に注目した。2 者間の相互作用には競争と協力がありうるが、3 者以上ではこれに加えて連合形成の可能性が生じる。人類進化の過程で連合形成の重要性が増し、意図共有と階層性にかかわる認知能力を促した可能性を探るため、3 者連合ゲーム（右図）を数理モデルとして定式化し、その解析を行った（文献 ）。



< 引用文献 >

Yoshinaga T, Nozaki K, Kondo O, Iida A, 2022. Estimation of sibilant groove formation and sound generation from early hominin jawbones. *JASA Express Letters* 2, 045203.

Sano K et al., 2019. The earliest evidence for mechanically delivered projectile weapons in Europe. *Nature Ecology & Evolution* 3, 1409-1414.

Nakamura M et al., 2019. Wild chimpanzees deprived a leopard of its kill: Implications for the origin of hominin confrontational scavenging, *Journal of Human Evolution* 131, 129-138.

Hayashi M, Takeshita H, 2022. Hierarchical object combination and tool use in the great apes and human children. *Primates* 63, 429-441.

Ihara Y, 2020. A mathematical model of social selection favoring reduced aggression. *Behavioral Ecology and Sociobiology* 74, 91.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計106件（うち査読付論文 59件 / うち国際共著 22件 / うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Mizuno F, Gojobori J, Kumagai M, Baba H, Taniguchi Y, Kondo O, Matsushita M, Matsushita T, Matsuda F, Higasa K, Hayashi M, Wang L, Kurosaki K, Ueda S	4. 巻 11
2. 論文標題 Population dynamics in the Japanese Archipelago since the Pleistocene revealed by the complete mitochondrial genome sequences.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific reports	6. 最初と最後の頁 12018
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-021-91357-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 林美里	4. 巻 6
2. 論文標題 日本の四季にくらす霊長類	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 林美里	4. 巻 28
2. 論文標題 チンパンジーに学ぶ親子関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育と保健	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 林美里	4. 巻 37
2. 論文標題 河合雅雄先生の追悼特集：企画趣旨	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 霊長類研究	6. 最初と最後の頁 191-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 6
2. 論文標題 コミュニケーションを進化の視点から考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 168
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる 言葉で気持ちを伝えるヒトの子ども	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 6
2. 論文標題 霊長類学がつなぐ人間関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 6
2. 論文標題 集団間の移動から霊長類の進化を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 12月13日
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 166
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの発達と言葉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bain M, Nagrani A, Schofield D, Berdugo S, Bessa J, Owen J, Hockings KJ, Matsuzawa T, Hayashi M, Biro D, Carvalho S, Zisserman A	4. 巻 7
2. 論文標題 Automated audiovisual behavior recognition in wild primates	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Science Advances	6. 最初と最後の頁 eabi4883
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/sciadv.abi4883	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 梅崎修、中村美知夫	4. 巻 165
2. 論文標題 人事のアカデミア 第7講 サル学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Works	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Yoshinaga T, Nozaki K, Kondo O, Iida A	4. 巻 2
2. 論文標題 Estimation of sibilant groove formation and sound generation from early hominin jawbones	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JASA Express Letters	6. 最初と最後の頁 45203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/10.0010209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 美里	4. 巻 28
2. 論文標題 チンパンジーに学ぶ親子関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保育と保健	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 美里	4. 巻 168
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる一言葉で気持ちを伝えるヒトの子ども	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 "Adolescent Sociality Across Cultures" Project (Co-PIs: *Emmott E & *Morita M)	4. 巻 NA
2. 論文標題 What does adolescence look like for teenagers in England and Japan? (イギリスと日本の中学生はどのような思春期を過ごすのか?)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Futurum Careers article	6. 最初と最後の頁 NA
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33424/FUTURUM204	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takakura, J.	4. 巻 596
2. 論文標題 Towards improved identification of obsidian microblade and microblade-like debitage knapping techniques: A case study from the Last Glacial Maximum assemblage of Kawanishi-C in Hokkaido, Northern Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 65-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2021.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishiaki Y, Tamura K, Suzuki M, Nakamura M, Kato S, Nakagawa K, Takakura J, Yamaoka T, Noguchi A, Kondo Y, Kobayashi Y	4. 巻 596
2. 論文標題 Spatiotemporal variability in lithic technology of Middle-to-Upper Paleolithic Asia: A new dataset and its statistical analyses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 144-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2021.03.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 *森田理仁	4. 巻 x
2. 論文標題 育てる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 In: 小田亮・橋彌和秀・大坪庸介・平石界 (編) 『進化でわかる人間行動の事典』	6. 最初と最後の頁 152157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Morita M, *Saito A, Nozaki M, Ihara Y	4. 巻 376(1827)
2. 論文標題 Childcare support and child social development in Japan: investigating the mediating role of parental psychological condition and parenting style	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences	6. 最初と最後の頁 20200025
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rstb.2020.0025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 166
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの発達と言葉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gakuhari T, et al.	4. 巻 3
2. 論文標題 Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Commun Biol	6. 最初と最後の頁 437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01162-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 設楽博己、近藤 修、米田 穰、平林大樹	4. 巻 100
2. 論文標題 長野県生仁遺跡出土抜歯人骨の 年代をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Takahashi T, Ihara Y	4. 巻 17
2. 論文標題 Quantifying the spatial pattern of dialect words spreading from a central population	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of The Royal Society Interface	6. 最初と最後の頁 20200335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsif.2020.0335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 5
2. 論文標題 ヒトとチンパンジーの子どもの発達	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 D Garcia-Martinez, et al.	4. 巻 6
2. 論文標題 Early development of the Neanderthal ribcage reveals a different body shape at birth compared to modern humans	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Science Advances	6. 最初と最後の頁 eabb4377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/sciadv.abb4377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 *Mizuno F, Taniguchi Y, Kondo O, Hayashi M, Kurosaki K, Ueda S	4. 巻 47
2. 論文標題 A study of 8,300-year-old Jomon human remains in Japan using complete mitogenome sequences obtained by next-generation sequencing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Annals of Human Biology	6. 最初と最後の頁 555-559
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03014460.2020.1797164	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suwa, G.*, Asfaw, B., Sano, K., Beyene, Y.	4. 巻 117
2. 論文標題 Reply to Barkai: Implications of the Konso bone handaxe	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA	6. 最初と最後の頁 30894-30895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2018084117	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sano, K., Beyene, Y., Katoh, S., Koyabu, D., Endo, H., Sasaki, T., Asfaw, B., and Suwa, G.*	4. 巻 117
2. 論文標題 A 1.4-million-year-old bone handaxe from Konso, Ethiopia, shows advanced tool technology in the early Acheulean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA	6. 最初と最後の頁 18393-18400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2006370117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 ラケル コスタ・林美里	4. 巻 90
2. 論文標題 マウンテンゴリラの水遊び ウガンダ・ブウィンディ国立公園での初観察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 342-343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 モルガン アラニク・林美里	4. 巻 90
2. 論文標題 ワンバの野生ボノボの毛づくろい	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 416-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 5
2. 論文標題 チンパンジーとすごした20年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 164
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後七歳から七歳六カ月までの発達	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 94-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 5
2. 論文標題 チンパンジーと「新しい生活様式」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 5
2. 論文標題 チンパンジーを守る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 162
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後六歳六カ月から七歳までの発達	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi M, Takeshita H	4. 巻 62
2. 論文標題 Object sorting into a two-dimensional array in humans and chimpanzees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-020-00850-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Costa R, Tomonaga M, Otsuka R, Huffman MA, Bercovitch F, Kalema-Zikusoka, Hayashi M	4. 巻 59
2. 論文標題 The dispersal dilemma among female mountain gorillas: Risk infanticide and gain protection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Journal of Ecology	6. 最初と最後の頁 273-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aje.12824	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Allanic M, Hayashi M, Matsuzawa T	4. 巻 91
2. 論文標題 Investigating the function of mutual grooming in captive bonobos (<i>Pan paniscus</i>) and chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Folia Primatologica	6. 最初と最後の頁 481-494
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000506308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Takahashi T, Ihara Y	4. 巻 17
2. 論文標題 Quantifying the spatial pattern of dialect words spreading from a central population	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Royal Society Interface	6. 最初と最後の頁 20200335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsif.2020.0335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 *Ihara Y, Ikeya K, Nobayashi A, Kaifu Y	4. 巻 145
2. 論文標題 A demographic test of accidental versus intentional island colonization by Pleistocene humans	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Evolution	6. 最初と最後の頁 102839
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jhevol.2020.102839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Ihara Y	4. 巻 74
2. 論文標題 A mathematical model of social selection favoring reduced aggression	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Behavioral Ecology and Sociobiology	6. 最初と最後の頁 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00265-020-02875-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 158
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後五歳六カ月から六歳までの発達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 4
2. 論文標題 チンパンジー研究から人の社会問題をかんがえる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 4
2. 論文標題 霊長類の「文化」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 160
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後六歳から六歳六カ月までの発達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 4
2. 論文標題 オランウータンをたずねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 4
2. 論文標題 チンパンジーのお世話	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Schofield D, Nagrani A, Zisserman A, *Hayashi M, Matsuzawa T, Biro D, Carvalho S	4. 巻 5
2. 論文標題 Chimpanzee face recognition from videos in the wild using deep learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Science Advances	6. 最初と最後の頁 eaaw0736
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/sciadv.aaw0736	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Costa R, *Hayashi M, Huffman MA, Kalema-Zikusoka G, Tomonaga M	4. 巻 60
2. 論文標題 Water games by mountain gorillas: implications for behavioral development and flexibility-a case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 493-498
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-019-00749-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Allanic M, *Hayashi M, Furuichi T, Matsuzawa T	4. 巻 61
2. 論文標題 Social influences on grooming site preferences in wild bonobos (Pan paniscus) at Wamba, DRC	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 213-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-019-00788-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村美知夫	4. 巻 2019年7月16日版
2. 論文標題 さまざまな「繋がり方」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都大学新聞	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村美知夫	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 肉食獣と私たちの祖先との関係は？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村美知夫	4. 巻 214
2. 論文標題 野生チンパンジーの長期研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘報	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hosaka K, Nakamura M, *Takahata Y	4. 巻 online first
2. 論文標題 Longitudinal changes in the targets of chimpanzee (Pan troglodytes) hunts at Mahale Mountains National Park: how and why did they begin to intensively hunt red colobus (Piliocolobus rufomitratu) in the 1980s?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 online first
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-020-00803-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saso A, *Kondo O	4. 巻 127
2. 論文標題 Periodontal disease in the Neolithic Jomon: inter-site comparisons of inland and coastal areas in central Honshu, Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.190113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kadowaki, S., Tamura, T., Sano, K., Kurozumi, T., Maher, L.A., Wakano, J.Y., Omori, T., Kida, R., Hirose, M., Massadeh, S., Henry, D.O.	4. 巻 135
2. 論文標題 Lithic technology, chronology, and marine shells from Wadi Aghar, southern Jordan, and Initial Upper Paleolithic behaviors in the southern inland Levant	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Human Evolution	6. 最初と最後の頁 102646
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jhevol.2019.102646	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sano, K., Arrighi, S., Stani, C., Aureli, D., Boschini, F., Fiore, I., Spagnolo, V., Ricci, S., Crezzini, J., Boscato, P., Gala, M., Tagliacozzo, A., Birarda, G.	4. 巻 3
2. 論文標題 The earliest evidence for mechanically delivered projectile weapons in Europe	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nature Ecology & Evolution	6. 最初と最後の頁 14091414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41559-019-0990-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takahashi T, Ihara Y	4. 巻 128
2. 論文標題 Cultural and evolutionary dynamics with best-of-k learning when payoffs are uncertain	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Theoretical Population Biology	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tpb.2019.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 *Morita M	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 Behaviours of dyads sitting outside in New York's Times Square: exploratory observation using webcam videos	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Human Ergology	6. 最初と最後の頁 6981
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nojo, S., & Ihara, Y.	4. 巻 462
2. 論文標題 The effect of sexual selection on phenotypic diversification among human populations: A simulation study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Theoretical Biology	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jtbi.2018.10.058	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita M	4. 巻 -
2. 論文標題 Human Behavioral Ecology	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Evolutionary Psychological Science	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-16999-6_1380-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura M, Hosaka K, Itoh N, Matsumoto T, Matsusaka T, Nakazawa N, Nishie H, Sakamaki T, Shimada M, Takahata Y, Yamagami M, Zamma K	4. 巻 131
2. 論文標題 Wild chimpanzees deprived a leopard of its kill: Implications for the origin of hominin confrontational scavenging	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Human Evolution	6. 最初と最後の頁 129-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jhevol.2019.03.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura M, Nishie H	4. 巻 -
2. 論文標題 A five-year-old chimpanzee ranged alone: Reconsidering independence in ranging	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pan Africa News	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi M, Kawakami F, Roslan R, Hapiszudin NM, Dharmalingam S	4. 巻 59
2. 論文標題 Behavioral studies and veterinary management of orangutans at Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 135-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-018-0650-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 親子のなりたち：前編 (大型類人猿探訪 第8回)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 29
2. 論文標題 日本の比較認知発達研究を世界に発信する：異文化のはざま	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 43473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 154
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後四歳六カ月から五歳までの発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 3
2. 論文標題 親子のなりたち：後編 (大型類人猿探訪 第9回)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 43749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里、高島友子、打越万喜子、前田典彦、鈴木樹理、友永雅己、松沢哲郎	4. 巻 88
2. 論文標題 ちびっこチンパンジーたちの18年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 772-773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 3
2. 論文標題 チンパンジーとヒトの発達をはかる「ものさし」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 156
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後五歳から五歳六カ月までの発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 88
2. 論文標題 大型類人猿における物にかかわる知性の発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1114-1118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakahashi W, Horiuchi S, Ihara Y	4. 巻 60
2. 論文標題 Estimating hominid life history: the critical interbirth interval	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Population Ecology	6. 最初と最後の頁 127-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10144-018-0610-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kurokawa S, Wakano JY, Ihara Y	4. 巻 9
2. 論文標題 Evolution of group-wise cooperation: generosity, paradoxical behavior, and non-linear payoff functions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Games	6. 最初と最後の頁 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/g9040100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤修	4. 巻 208
2. 論文標題 頭骨形態からみた縄文人の地域性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 249-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasai N, Kondo O, Suzuki K, Aoki Y, Ishii N, Goto M	4. 巻 12
2. 論文標題 Quantitative evaluation of maxillary bone deformation by computed tomography in patients with leprosy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e0006341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0006341	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ponce de Leon MS, Koesbardiati T, Weissmann JD, Milella M, Reyna-Blanco CS, Suwa G, Kondo O, Malaspinas A-S, White TD, Zollikofer CPE	4. 巻 115
2. 論文標題 Human bony labyrinth is an indicator of population history and dispersal	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences USA	6. 最初と最後の頁 4128-1433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1717873115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kochiyama T, Ogihara N, Tanabe HC, Kondo O, Amano H, Hasegawa K, Suzuki H, Ponce de Leon MS, Zollikofer CPE, Bastir M, Stringer C, Sadato N, Akazawa T	4. 巻 8
2. 論文標題 Reconstructing the Neanderthal brain using computational anatomy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 6296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-24331-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kondo O, Yoneda M, Taniguchi Y	4. 巻 126
2. 論文標題 A female human skeleton from the Initial Jomon period found in the Iyai rock shelter in mountainous Kanto, Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 151-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.180730	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama M, Kondo O, Pesonen P, Alvesalo L, Lahdesmaki R	4. 巻 13
2. 論文標題 Influence of long and short arms of X chromosome on maxillary molar crown morphology	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0207070
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0207070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 McColl H, Oota H, et al.	4. 巻 361
2. 論文標題 The prehistoric peopling of Southeast Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Science	6. 最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/science.aat3628	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakamura M	4. 巻 25
2. 論文標題 Masturbation with a tool by an infant male chimpanzee	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pan Africa News	6. 最初と最後の頁 43500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morisaki K, Sano K, Izuho M,	4. 巻 17
2. 論文標題 Early Upper Paleolithic blade technology in the Japanese Archipelago	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological Research in Asia	6. 最初と最後の頁 79-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ara.2018.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lee G-K, Sano K	4. 巻 -
2. 論文標題 Were tanged points mechanically delivered armatures? Functional and morphometric analyses of tanged points from an Upper Paleolithic site at Jingeuneul, Korea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological and Anthropological Sciences	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12520-018-0703-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumae H, Savage PE, Ranacher P, Blasi DE, Currie TE, Sato T, Tajima A, Brown S, Stoneking M, Shimizu KK, Oota H, Bickel B	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring deep-time relationships between cultural and genetic evolution in Northeast Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BioRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/513929	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Izuho M, Zwyns N, Sano K	4. 巻 17
2. 論文標題 Special issue: The Initial Upper Paleolithic in Asia: Assemblages variability, timing and significance	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological Research in Asia	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ara.2018.10.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐野勝宏、工藤雄一郎、鯨本真由美	4. 巻 57
2. 論文標題 鳥浜貝塚出土有溝砥石の形態測定学的分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第四紀研究	6. 最初と最後の頁 229-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4116/jaqua.57.229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michikawa T, Suzuki H, Moriguchi M, Ogihara N, Kondo O, Kobayashi Y	4. 巻 12
2. 論文標題 Automatic extraction of endocranial surfaces from CT images of crania	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0168516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0168516	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Itahashi Y, Miyake Y, Maeda O, Kondo O, Hongo H, Van Neer W, Chikaraishi Y, Ohkouchi N, Yoneda M	4. 巻 82
2. 論文標題 Preference for fish in a Neolithic hunter-gatherer community of the upper Tigris, elucidated by amino acid d15N analysis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science	6. 最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jas.2017.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kondo O, Fukase H, Fukumoto T	4. 巻 125
2. 論文標題 Regional variations in the Jomon population revisited on craniofacial morphology	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.170428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤修	4. 巻 208
2. 論文標題 頭骨形態からみた縄文人の地域性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 249-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasai N, Kondo O, Suzuki K, Aoki Y, Ishii N, Goto M	4. 巻 12
2. 論文標題 Quantitative evaluation of maxillary bone deformation by computed tomography in patients with leprosy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e0006341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0006341	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morisaki K, Sano K, Izuho M	4. 巻 -
2. 論文標題 Early Upper Paleolithic blade technology in the Japanese Archipelago	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological Research in Asia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ara.2018.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kondo Y, Sano K, Omori T, Abe-Ouchi A, Chan W-L, Kadowaki S, Naganuma M, O'ishi R, Oguchi T, Nishiaki Y, Yoneda M	4. 巻 -
2. 論文標題 Ecological niche and least-cost path analyses to estimate optimal migration routes of Initial Upper Palaeolithic populations to Eurasia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nishiaki Y, Akazawa T (Eds.), The Middle and Upper Paleolithic Archeology of the Levant and Beyond. Springer, Singapore	6. 最初と最後の頁 199-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-10-6826-3_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishie H, Nakamura M	4. 巻 165
2. 論文標題 A newborn infant chimpanzee snatched and cannibalized immediately after birth: Implications for "maternity leave" in wild chimpanzees	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6. 最初と最後の頁 194-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.23327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura M, Nakazawa N, Nyundo BR, Itoh N	4. 巻 38
2. 論文標題 Tongwe names of mammals: Special reference to mammals inhabiting the Kasoje Area, Mahale Mountains, western Tanzania	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 221-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/228149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayashi M, Matsuzawa T	4. 巻 48
2. 論文標題 Mother-infant interactions in captive and wild chimpanzees	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2016.11.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi M, Kawakami F, Roslan R, Hapiszudin NM, Dharmalingam S	4. 巻 59
2. 論文標題 Behavioral studies and veterinary management of orangutans at Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 135-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-018-0650-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 林美里	4. 巻 150
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後三歳六カ月から四歳までの発達. 発達	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 オランウータンがくらす島 (大型類人猿探訪 第5回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里、熊崎清則、松沢哲郎、友永雅己	4. 巻 87
2. 論文標題 ブチの最期 チンパンジーの脳死	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 640-641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 43
2. 論文標題 霊長類における愛着研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 チンパンジーの「死」 (大型類人猿探訪 第6回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 152
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後四歳から四歳六カ月までの発達	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 ボノボをたずねて三千里 (大型類人猿探訪 第7回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 親子のなりたち：前編 (大型類人猿探訪 第8回)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計95件 (うち招待講演 35件 / うち国際学会 32件)

1. 発表者名 Misato Hayashi, Hideko Takeshita
2. 発表標題 Hierarchical object combination and tool use in great apes and human children
3. 学会等名 Joint Meeting of the International Primatological Society and the Latin American Society of Primatology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋拓也、小野原彩香、井原泰雄
2. 発表標題 ネットワーク上の文化伝達モデルによる日本語アクセント様式の変異率・系統関係の推定
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第14回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森田理仁・徳増雄大
2. 発表標題 恋愛・結婚・出生・子育ての四段階と少子化：現代日本における結婚の意義に注目した二次分析（研究計画）
3. 学会等名 日本人間行動進化学会・第14回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森田理仁・西川有理・徳増雄大・井原泰雄
2. 発表標題 人類史における音楽の進化：社会生態・認知・文化の進化に基づくシナリオ
3. 学会等名 日本動物行動学会・第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 ホモ・サピエンスの複合的狩猟具の出現と組み合わせ道具の起源
3. 学会等名 新学術領域「共創言語進化・出ユーラシア」合同領域会議「物と命」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林美里・竹下秀子
2. 発表標題 ヒト乳幼児と大型類人猿の定位操作と入れ子のカップ課題から見た認知発達
3. 学会等名 第37回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sano, K.
2. 発表標題 Insight into competitive advantage of modern humans over Neanderthals
3. 学会等名 International Conference dedicated to the 25th Anniversary of CNEAS, Tohoku University. Session A2: Human Evolution and the History of Advances in Human Cultures (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishikawa Y, Ihara Y
2. 発表標題 The role of social context in the cultural evolution of traditional Ryukuan songs
3. 学会等名 Cultural Evolution Society Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi T, Ihara Y
2. 発表標題 Simulating the diffusion of Japanese dialects through a network model
3. 学会等名 Cultural Evolution Society Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井原泰雄
2. 発表標題 適応論的人間観と出生率の低下
3. 学会等名 日本人口学会第73回大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi T, Ihara Y
2. 発表標題 Spatial evolution of Japanese dialects explained by a network model of cultural evolution
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishikawa Y, Ihara Y
2. 発表標題 The role of social context in cultural evolution of traditional Ryukyuan songs
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tokumasu Y, Kondo S, Okanoya K, Ihara Y
2. 発表標題 Roles of low-pitched voice in Japan
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Morita, M., Saito, A., Nozaki, M. & Ihara, Y.
2. 発表標題 Parental psychological condition and parenting behaviour mediate the associations between childcare support and child social development in Japan
3. 学会等名 The 16th European Human Behaviour and Evolution Association conference (EHBEA 2021 DIGITAL) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi T, Ihara Y
2. 発表標題 Spatial evolution of Japanese dialects explained by a network model of cultural evolution
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishikawa Y, Ihara Y
2. 発表標題 The role of social context in cultural evolution of traditional Ryukyuan songs
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tokumasu Y, Kondo S, Okanoya K, Ihara Y
2. 発表標題 Roles of low-pitched voice in Japan
3. 学会等名 European Human Behaviour and Evolution Association 15th Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 気候変動と人類史
3. 学会等名 第10回学術交流連携講演会 人の営みと自然（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西川有理、井原泰雄
2. 発表標題 琉球列島の民謡における社会的コンテクストが文化進化に与える影響と言語および遺伝子との比較
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第13回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森田理仁・齋藤慈子・野崎茉莉・井原泰雄
2. 発表標題 親の精神的健康と養育行動は、子育てへのサポートと子どもの社会的発達の間を媒介するか？ 共同繁殖の視点から
3. 学会等名 日本人間行動進化学会・第13回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林美里・竹下秀子
2. 発表標題 ヒト乳幼児と大型類人猿4種の定位操作に見る認知発達
3. 学会等名 第36回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森田理仁・齋藤慈子・野崎茉莉・井原泰雄
2. 発表標題 現代社会とヒトの共同繁殖：子育てサポート・親の健康・養育行動・子の発達
3. 学会等名 日本動物行動学会・第39回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森田理仁
2. 発表標題 進化から見たヒトの少子化と繁殖戦略－実証研究のレビューを中心に
3. 学会等名 日本人口学会・第72回大会・企画セッション「生物人口学理論の現況報告－理論研究からデータ解析まで－」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井原泰雄、池谷和信、野林厚志、海部陽介
2. 発表標題 更新世人類による島への移住に関する人口学的分析
3. 学会等名 第74回日本人類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤慈子・野崎茉莉・森田理仁・井原泰雄
2. 発表標題 3-5歳児を持つ母親と父親の育児におけるソーシャルサポートと精神的健康
3. 学会等名 日本心理学会・第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 道具に見る階層構造の発達と言語
3. 学会等名 第2回共創言語セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジーの子育てを語る
3. 学会等名 第36回日本霊長類学会大会@中部大学プレイベント「動物園飼育員と研究者が語る 霊長類学オンライン体験講座」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 ネアンデルタール人の絶滅の謎 ホモ・サピエンスの卓越した狩猟具
3. 学会等名 ELPHシンポジウム2020(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 大型類人猿の親子関係から見たヒトの「親性」の進化的起源
3. 学会等名 第3回「親性」研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジー研究者から見た世界：日常生活からアフリカまで研究裏話
3. 学会等名 第28回ミュージアムトーク(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋拓也、井原泰雄
2. 発表標題 集団間のネットワークを用いた文化伝播・拡散の数理的解析
3. 学会等名 第12回日本人間行動進化学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳増雄大、近藤聡太郎、岡ノ谷一夫、井原泰雄
2. 発表標題 向社会性のシグナルとしての声
3. 学会等名 第12回日本人間行動進化学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田理仁・Emily Emmott・井原泰雄・徳増雄大・川本哲也・野寄茉莉・齋藤慈子・伊藤慎悟・Laura Brown・Anush Hassan・Rebecca Sear・Ruth Mace
2. 発表標題 「思春期の社会性に関する文化比較」プロジェクトの紹介：日英の中学生を対象とした写真投影法による基礎調査
3. 学会等名 日本人間行動進化学会・第12回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田理仁
2. 発表標題 ヒトの自然条件下での行動をウェブカメラで観察する：二人組のやり取り
3. 学会等名 日本動物行動学会・第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 メディアで伝わる？大型類人猿の本来のくらしと親子関係
3. 学会等名 SAGA22 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 日本列島における投槍器・弓矢猟の出現と波及
3. 学会等名 シンポジウムHunting 狩猟相解明のためアプローチ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 比較発達心理学
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Hierarchical complexity in stone-tool use by wild chimpanzees and nesting-cup manipulation
3. 学会等名 Protolang 6 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井原泰雄
2. 発表標題 文化の小進化と大進化
3. 学会等名 第27回産研アカデミックフォーラム「文化を科学する：進化論で社会を理解する」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 チンパンジーのメス同士の「挨拶」
3. 学会等名 第35回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林美里・竹下秀子
2. 発表標題 チンパンジーとヒト幼児の入れ子のカップ操作にみる階層性と効率性の発達
3. 学会等名 第35回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi M, Costa R, Maeda N
2. 発表標題 Change of behavior and space use in a captive group of chimpanzees after an expansion of enclosures
3. 学会等名 The 14th International Conference on Environmental Enrichment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura M
2. 発表標題 Japanese primatology and the long-term studies of chimpanzees in Mahale.
3. 学会等名 Symposium: 40 Years of Research of the Ta Chimpanzee Project (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sano, K.
2. 発表標題 Emergence of the complex multi-faceted sequences in human tools
3. 学会等名 Evolinguistics Workshop 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 「サル学」とアフリカ研究の黎明期
3. 学会等名 第242回アフリカ地域研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジー研究者、母になる
3. 学会等名 第55回京大モンキー日曜サロン
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Morita M
2. 発表標題 Exploring socioecological foundations for the evolution of language: observation of communication in a natural setting using webcam videos
3. 学会等名 The 14th European Human Behaviour and Evolution Association conference (EHBEA 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井原泰雄
2. 発表標題 社会学習の集団レベルの効果に関する理論
3. 学会等名 第66回日本生態学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ihara, Y.
2. 発表標題 When and why language emerged
3. 学会等名 Tokyo Lectures in Evolving Linguistics 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatorial manipulation in great apes and humans: Implication for action patterns in tool use
3. 学会等名 The 10th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakamura M
2. 発表標題 Association and social relationships among female chimpanzees of Mahale
3. 学会等名 27th Congress of the International Primatological Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatorial manipulation in captive great apes and humans: An implication for tool-using behavior in the wild
3. 学会等名 27th International Primatological Society Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ihara Y
2. 発表標題 Cultural phylogeny and diffusion
3. 学会等名 The (co-)evolution of genes, languages, and music from data analyses to theoretical models (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sano K
2. 発表標題 Use-wear analysis of Uluzzian lunates from Grotta del Cavallo in Italy
3. 学会等名 XVIII World UISPP Congress 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ihara Y, Kaifu Y
2. 発表標題 Dispersal to islands by the Pleistocene humans: evaluating alternative scenarios
3. 学会等名 The 1st AsiaEvo Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool-use repertoire in great apes and humans
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Morita M
2. 発表標題 Evolutionarily (mal)adaptive outcomes and direct observation of behaviour: my two interests
3. 学会等名 Seminar (open to all), Human Evolutionary Ecology Group, Department of Anthropology, University College London (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation in captive great apes and humans: an implication for tool-using behavior in the wild
3. 学会等名 The 63rd PRIMATES Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 霊長類の社会集団 その規模・構造・継承性
3. 学会等名 「国家の規模とガバナンスの学際的分析」研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakahashi W, Horiuchi S, Ihara Y
2. 発表標題 Hominid interbirth interval and evolution of paternal care
3. 学会等名 2018 Annual Meeting of the Society for Mathematical Biology & the Japanese Society for Mathematical Biology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田理仁、井原泰雄
2. 発表標題 (非)言語行動から言語進化に迫る：ウェブカメラの映像を用いた探索的観察
3. 学会等名 日本人間行動進化学会 第11回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野原彩香
2. 発表標題 真似しにくい形質としてのアクセントの協力・協調行動における機能
3. 学会等名 日本人間行動進化学会 第11回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 飼育下と野生のチンパンジーにみる母子関係 ～社会性の発達を支える双方向の愛着形成～
3. 学会等名 第21回SAGA (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 急性脊髄炎による四肢不全麻痺を発症したチンパンジー・レオ -10年以上にわたる長期リハビリテーションの取り組み
3. 学会等名 第39回バイオメカニズム学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kondo O
2. 発表標題 Evolution of brain endocast and human language capacity
3. 学会等名 JSL2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里、竹下秀子
2. 発表標題 飼育下の大型類人猿とヒト幼児における定位操作の発達から見た野生での道具使用行動
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 たかだか50数年で私たちはチンパンジーのことをどこまで「分かった」と言えるのだろうか？
3. 学会等名 第47回 京大モンキー日曜サロン（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 石器テクノロジーの発達とデザインの変遷
3. 学会等名 エチオピア大地溝帯で初期人類の進化と石器技術の発展を探る（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 62nd PRIMATES Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sano K
2. 発表標題 Function of early Upper Palaeolithic pointed blades in Japan
3. 学会等名 The 9th Meeting of the Asian Palaeolithic Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ihara Y
2. 発表標題 An introduction to mathematical modeling in evolutionary archaeology
3. 学会等名 Perspectives on Prehistoric Cultural Evolution: From Archaeology to Behavioral Experiment (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tamura K, Ihara Y
2. 発表標題 Quantifying cultural macro-evolution: A case study of the hinoeuma fertility drop
3. 学会等名 Inaugural Cultural Evolution Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中橋渉、堀内史朗、井原泰雄
2. 発表標題 古人類はどのように生きていたか？
3. 学会等名 第27回日本数理生物学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中橋渉、堀内史朗、井原泰雄
2. 発表標題 古人類の出産間隔の推定
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 織原健人、井原泰雄
2. 発表標題 腸内細菌叢における多様性傾向のシミュレーションによる要因研究
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ihara Y
2. 発表標題 Evolution of physical weakness by social selection through choice of collaborative partners
3. 学会等名 Kyoto Conference on Evolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 能城沙織、井原泰雄
2. 発表標題 配偶者選択が表現型の集団間差異に与える効果
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第10回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中橋渉、堀内史朗、井原泰雄
2. 発表標題 化石データから推定される古人類の出産間隔
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第10回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井原泰雄
2. 発表標題 言語進化の生態学的側面
3. 学会等名 第47回ホミニゼーション研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井原泰雄
2. 発表標題 Stag-huntゲームの進化的解析
3. 学会等名 新学術研究領域「共創言語進化」第1回領域全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野勝宏
2. 発表標題 狩猟具の発達とその進化・行動論的意義
3. 学会等名 日本旧石器学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 チンパンジーの『日常』から言語について考える
3. 学会等名 第47回ホミニゼーション研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村美知夫、保坂和彦、伊藤詞子、松本卓也、松阪崇久、仲澤伸子、西江仁徳、島田将喜、高畑由起夫、山上昌紘、座馬耕一郎
2. 発表標題 野生チンパンジーの対峙的屍肉食同所的肉食動物との関係に着目して
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村美知夫、山上昌紘
2. 発表標題 チンパンジーがヒョウから獲物を奪う
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村美知夫
2. 発表標題 チンパンジーの道具利用（+装飾の起源？）
3. 学会等名 「世界のビーズをめぐる人類学的研究」研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Uchida A, Deacon TW
2. 発表標題 The trouble with symbol: symbolic behavior and human evolution
3. 学会等名 Behaviour 2017 (A joint meeting of the 35th International Ethological Conference and the 2017 Summer Meeting of the Association for the Study of Animal Behaviour) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里、竹下秀子
2. 発表標題 ヒト乳幼児と大型類人猿4種における物の操作と道具使用から見た認知発達
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Object manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 2nd African Primatological Consortium Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool-use tendencies in great apes and humans
3. 学会等名 The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 大型類人猿の研究からヒトを知る
3. 学会等名 東京フォーラム2017「フィールドとラボと社会をつなぐ野生動物研究」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 母親による育児の支援から考える飼育チンパンジーの未来
3. 学会等名 SAGA20 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatorial manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 62nd PRIMATES Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatorial manipulation and tool-use repertoire in great apes and humans
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 物の操作における行為の文法から見たチンパンジーとヒトの子どもの認知発達
3. 学会等名 共創言語進化第1回領域全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジーの研究からヒトを知る
3. 学会等名 第13回京都大学附置研究所・センターシンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 林美里「進化心理学」(70-79ページ)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 219
3. 書名 わらべうたと心理学の出会い(湯澤美紀編著)	

1. 著者名 木村大治・花村俊吉(編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 374
3. 書名 出会いと別れ 「あいさつ」をめぐる相互行為論	

1. 著者名 Gaudzinski-Windheuser, S., Jris, O., Sano, K. and 81 co-authors	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Verlag des Rmisch-Germanischen Zentralmuseums	5. 総ページ数 759
3. 書名 The beef behind all Possible pasts. The Tandem-Festschrift in Honour of Elaine Turner and Martin Str	

1. 著者名 佐野勝宏・他9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 282
3. 書名 石器痕跡研究の理論と実践	

1. 著者名 佐野勝宏・他35名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 146
3. 書名 季刊考古学・別冊32 上黒岩岩陰と縄文草創期	

1. 著者名 井原泰雄、梅崎昌裕、米田穰編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 人間の本质にせまる科学 - 自然人類学の挑戦	

1. 著者名 大塚柳太郎（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 『生態人類学は挑む SESSION 1動く・集まる』	

1. 著者名 定延利之(編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 発話の権利	

1. 著者名 河合 香吏(編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 586
3. 書名 極限 人類社会の進化	

1. 著者名 井原泰雄ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ムカシのミライ	

1. 著者名 井原泰雄ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 進化心理学を学びたいあなたへ	

1. 著者名 佐野勝宏ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 304
3. 書名 日本考古学・最前線	

1. 著者名 佐野勝宏ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 441
3. 書名 磨斧作針 橋本博文先生退職記念論集	

1. 著者名 諏訪 元、ヨナス ベイエネ、佐野 勝宏、ブルハニ アスファオ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 120
3. 書名 アシュール石器文化の草創	

1. 著者名 バイオメカニズム学会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 608
3. 書名 手の百科事典	

1. 著者名 中尾 央、松木 武彦、三中 信宏	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 文化進化の考古学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>共創的コミュニケーションのための言語進化学 http://evolvinguistics.net/ 共創的コミュニケーションのための言語進化学 / 研究概要 / B02 http://evolvinguistics.net/outline/#outlineB02</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 修 (Kondo Osamu) (40244347)	東京大学・大学院理学系研究科(理学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	佐野 勝宏 (Sano Katsuhiko) (60587781)	東北大学・東北アジア研究センター・教授 (11301)	
研究分担者	中村 美知夫 (Nakamura Michio) (30322647)	京都大学・理学研究科・准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	林 美里 (Hayashi Misato) (50444493)	中部学院大学・教育学部・准教授 (33707)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	太田 博樹 (Oota Hiroki)		
研究 協力者	小野原 彩香 (Onohara Ayaka)		
研究 協力者	森田 理仁 (Morita Masahito)		
研究 協力者	ディーコン テレンス (Deacon Terrence)		
研究 協力者	スタウト ディートリック (Stout Dietrich)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Insights into Human History in the Eurasian Stone Age: Recent Developments in Archaeology, Palaeoanthropology, and Genetics	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Origins and evolution of language: Archaeological and anthropological perspectives	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	シエナ大学			
イタリア	シエナ大学			
イタリア	シエナ大学	ボローニャ大学	エレットゥラ・シンクロトロン 研究所	
イタリア	ボローニャ大学	エレットゥラ・シンクロトロン 研究所		
ドイツ	ケルン大学			